

いつも読んでくれてありがとう



特集

これまでも これからも



伝わる広報を

リニューアル後の /
読者の声

文字と写真、挿し絵の
バランスが良い。

文字の大きさもちょうど良く、
インデックスや記事の種類に
よってタイトルが色分けして
あるのも分かりやすいです。

裏表紙のほうは大切な情報を
一番最初に確認できるところが
良いです。

特集記事は、良く考えられて、
毎回楽しみにしています。

文章が簡潔で読みやすいです。

カラーで明るく
読む気になります。

令和6年3月号 (No.276)
これが令和の最先端！
～久喜の教育～



令和7年9月号 (No.294)
みんなでつくろう！
ゼロカーボンシティ



時代とともに少しずつ形を変えながら作り上げてきた広報くき。しかし、作成への情熱は創刊当時から変わりません。全ては、市の情報を皆さんに分かりやすく届けるため。表紙にもある「市民と市政をつなぐ情報紙」として、これからも「伝える広報」をモットーに、旬な情報をたくさん用意して発行を続けていきます。

**市民と市政をつなぐ
情報紙として**

事として毎回さまざまなジャンルの記事を掲載するなど、皆さんの関心を引くための工夫を常に凝らしてきました。また、根強い人気コンテンツである久喜歴史日より、ご寄付を紹介する愛の泉など、現在まで受け継がれているコーナーもあります。表紙やこのページでは、歴代の広報くきをご紹介。皆さんの印象に残っている号はありますか？

全国広報コンクール 読売新聞社賞 受賞

- 評価された点
- ・表紙はこうでなくてはいけないというお手本
 - ・話の展開が巧み
 - ・1ページの情報量を抑えるなど、メッセージが伝わりやすくなる工夫がされている



令和3年12月号 (No.249)
めざせ！食品ロスゼロ



令和5年5月号 (No.266)
久喜から広がる3X3
(埼玉ワイルドベアーズが
久喜市をホームタウンに)



令和3年8月号 (No.245)
学校給食センター稼働スタート



令和4年1月号 (No.250)
南栗橋から始まる新しい街のカタチ
(BRIDGE LIFE Platform構想)



令和5年9月号 (No.270)
ぼうさいクエスト(防災特集)



広報くきの歴史

創刊当時の広報くきは、月2回発行(毎月15日はお知らせ版)、色も赤黒の2色印刷でした。時世をたえながら、その時々旬な情報を皆さんにお伝えしてきました。令和元年のリニューアル後は月1回発行となり、全面カラー化で見やすさが大幅アップ！さらに、特集記

**市民に支えられ
迎えた300号**

広報くきは、平成22年の久喜市合併直後に創刊し、今月で300号を迎えました。毎月欠かさず発行し続け、この記念すべき節目を迎えられたのは、市民の皆さんの支えがあったからにほかなりません。いつも広報くきを愛読していただき、ありがとうございます。

創刊号 平成22年4月1日号



令和元年5月号 (No.218)
地域を支える「子育て＝親育て」



**広報くき
リニューアル**

平成24年5月1日号 (No.51)
市の花、木、歌決定



平成27年12月号 (No.137)
圏央道(桶川北本IC～白岡菖蒲IC) 開通



令和2年10月号 (No.235)
未来につなぐ緑と想い
—現代に受け継がれる本多静六博士の心—



この月は国際交流の特集に絡めて、地球のイラストでグローバルらしさを表現しました。

知ってた!?

表紙の字が毎月変わってる!?

表紙のKukiの文字、よく見ると毎月「i」の字を変えているんです。特集に関連したものしたり、季節にあったものしたり。広報担当者のちょっとしたアンビゴコロにも注目です。



広報くき300号特集

これまでも これからも

伝わる広報を



マチイロ



カタログポケット



市ホームページ

広報くきはWebやアプリでも

広報くきは、行政区長を通じて各世帯に配布しているほか、市内公共施設に配架しています。そのほか、市ホームページや広報紙閲覧サービス（Web、アプリ）でも広報くきが読めます。あなたに合った形で広報くきをご覧ください。

転入された場合や広報紙が届かない場合は、お住まいの行政区の区長さんへご連絡ください。

カタポケは多言語対応！

（日本語、英語、韓国語、中国語簡体、中国語繁体、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語）



特集記事 playback

広報くきの特集記事は、市のトピックスや社会問題など特定のテーマについて、深く掘り下げて作成しています。市民の皆さんにぜひ読んでもらいたい——。そんな想いで作ったこれまでの広報くきの特集記事を振り返ります。

令和2年10月号 本多静六特集



「日本の公園の父」と呼ばれる久喜市出身の偉人・本多静六博士を特集。ゆかりのある日比谷公園と明治神宮を取材し、博士が造園に込めた想いを探った。出身校である三箇小学校では博士について学ぶ時間が設けられており、博士の教えが今のこどもたちにも息づいていることがわかった。

令和元年5月号 子育て特集



広報くき初の特集記事。子育てに不安や悩みを持つ方が増えていることを踏まえ、市の子育て支援について紹介した。子育て支援センターでのイベントや育児相談、保健センターでのママ・パパ教室の紹介に加え、利用者の声も掲載することで、安心して子育てできる仕組みがあることを伝えた。

令和5年9月号 防災特集



「自分の命は自分で守る」をテーマに、防災対策の重要性を漫画で紹介。災害を無くすことはできないが、一人ひとりが備えることで被害を最小限に抑えられることを、ゲームのRPG仕立てのストーリーで解説。併せて、自主防災組織の優良活動事例も掲載し、地域としての防災力の向上を促した。

令和3年12月号 食品ロス特集



食品ロスの現状と対策を特集。身近にできる食品ロスを減らす取り組み、そしてフードドライブで余った食品を活かす取り組みを、子ども食堂など食品が届いた先での活動にも触れながら紹介した。また、食品を大切にという想いを込め、食品で日本地図を表現し、思わず目を引く表紙に。

音訳ボランティア団体

久喜市音訳の会

コスモスライブラリー

広報くきは視覚障がいのある方などに、音訳版CDを発行しています。合併前の旧久喜市の時代から音訳ボランティア団体「久喜市音訳の会コスモスライブラリー」のご協力によって、毎月必要な方にお届けしています。音訳とは「文字を音で伝える」とのこと。視覚障がいのある方などの「目の代わり」となるよう、正確に伝えることが必要とされています。コスモスライブラリーでは、発音やアクセント、イントネーション、間の取り方、読むスピードなどを考え、マイクの先にいる人を想像しながら録音し、さらに音訳技能の向上を心掛けていくとことです。声で情報を届ける活動は、視覚障がい者と社会を結ぶ「声の架け橋」となっています。

主な活動内容

- ・市や社会福祉協議会からの依頼による音訳
- ・声の情報誌「コスモスだより」の発行
- ・おはなし会の開催（高齢者施設などで歌や体操、大型紙芝居を上演）
- ・個人の方からの依頼による音訳（書籍など）

音訳版CDの送付を希望される方は、**問** 障がい者福祉課自立支援第1係（内線3254）へお問い合わせください。

時代に遅れをとらず、細やかなニーズに応えられるように

近年、届ける方法や求められるものが少しずつ変わってきていると感じています。AIの読み上げも増えていますが、正しい・美しい日本語の音訳という観点からは、やはり人がベースになると思っています。時代に遅れをとらず、細やかなニーズに応えられるようにしたいと考えています。市からは広報くきのほか、循環バス時刻表や選挙公報なども依頼され、音訳しています。学習、仕事など生活の中で、文字の情報にサポートが必要と思われるときは、私たちが思い出し、お手伝いできることがあるかもしれません。



あやとやすこ
会長 綾戸康子さん

皆さんの声をお聞かせください

広報くきへの感想、意見、その他取り上げてほしいことなど、皆さんの声をお聞かせください。今後の広報紙作成の参考にさせていただきます。

問 シティセールス課 広報広聴係（内線2251〜2254）

見やすさ

余白やメリハリを意識し、情報を視覚的に整理

わかりやすさ

言葉の言い回しを工夫したり、余分な言葉をカットして簡潔明瞭な文章に

親しみやすさ

記事に合った写真やイラストを入れて、親近感が湧くように

作成時に気をつけていること

私たちは広報くきを作るときに『伝える』ことを意識して作成しています。情報をただ一方的に発信するのではなく、皆さんがストレスなくスムーズに読めて理解できるようにするため、さまざまな工夫をしています。皆さんに大切な情報をお届けするため、『伝える広報』を目指し、日々奮闘しています。